

都道府県・指定都市番号	11	都道府県・指定都市名	埼玉県	研究課題番号・校種名	2 小学校
				教科名	社会科
研究課題	小学校社会科における「社会的事象の見方・考え方」はどのようなものであり、児童はそれをどのようにして働かせるのか、その基本的な捉え方や実際の授業への取り入れ方、指導案作成の際の具体策等について研究する。				
学校名 (児童数)	埼玉大学教育学部附属小学校 (671人)				
所在地 (電話番号)	〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤 6-9-44				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.fusho.saitama-u.ac.jp/				
<p>研究のキーワード</p> <p>・社会的事象の見方・考え方 ・追求の視点や方法 ・問い ・指導案</p>					
<p>研究結果のポイント</p> <p>○「社会的事象の見方・考え方」についての基礎研究 ○児童が「社会的事象の見方・考え方」を働かせて学ぶ授業づくりの実践的研究</p>					

1 研究主題等

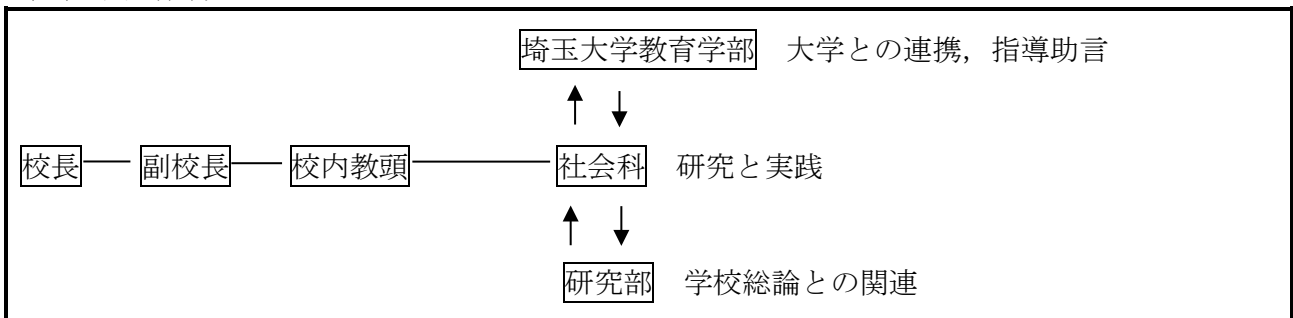
(1) 研究主題

社会的事象の見方・考え方を働かせる指導の工夫
------------------------

(2) 研究主題設定の理由

- 「社会的事象の見方・考え方」の基礎研究について  
昨年度、小学校社会科における「追究の視点や方法」について整理し、授業展開を構想した。しかし、「方法」については、十分に検討することができなかつたため。
- 児童が「社会的事象の見方・考え方」を働かせて学ぶ授業づくりの実践的研究について
  - ①「見方・考え方」を意図的に組み入れた指導案の作成  
「社会的事象の見方・考え方」を指導案に位置付けることは、これからの社会科教育において必要なことである。しかし、その具体は十分に検討されていないため。
  - ②児童が「社会的事象の見方・考え方」を働かせて学ぶ授業の実践  
授業実践を通じて、児童の「追究の視点や方法」について、児童の記述などから検証することで、児童が社会的事象の見方・考え方を働かせている姿を検討したい。

(3) 研究体制



(4) 2年間の主な取組

平成 27 年度	1 学期	・研究主題・研究内容・研究方法の検討及び決定 ・研究計画書作成 第1回検証授業 ・文献による研究 ・各学年の教材開発 ・先進校視察
	2 学期	・各学年の教材研究 ・第83回研究協議会に向けた理論と指導案の作成

平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第83回研究協議会（10月13日）</li> <li>・研究協議会の提案を通じた成果と課題の整理</li> <li>・文献による研究</li> <li>・先進校視察</li> </ul> <p>3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題・研究内容・研究方法の検討と修正</li> <li>・第2回検証授業</li> <li>・各学年の教材研究</li> <li>・文献による研究</li> <li>・先進校視察</li> <li>・平成27年度の成果と課題の整理</li> <li>・まとめ</li> </ul>
平成28年度	<p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題・研究内容・研究方法の検討及び決定</li> <li>・研究計画書作成</li> <li>第3回検証授業</li> <li>・文献による研究</li> <li>・各学年の教材開発</li> <li>・先進校視察</li> </ul> <p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の教材研究</li> <li>・文献による研究</li> <li>・第4回・5回検証授業</li> <li>・埼玉大学教育学部附属小学校第84回研究協議会に向けた理論と指導案の作成</li> <li>・埼玉大学教育学部附属小学校第84回研究協議会（10月19日）</li> <li>・研究協議会の提案を通じた成果と課題の整理</li> <li>・先進校視察</li> <li>・教育課程研究センター関係指定事業研究協議会に向けた理論と指導案の作成</li> </ul> <p>3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2カ年の成果と課題の整理</li> <li>・まとめ</li> </ul>

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ①「社会的事象の見方・考え方」の基礎研究

- ・昨年度までの研究を基に、「社会的事象の見方・考え方」について検討する。
- ・追究の視点や方法について、「問い」との関係で整理する。

#### ②授業研究を通じた「社会的事象の見方・考え方」の実践的研究について

- ・児童が「社会的事象の見方・考え方」を働かせて学ぶ授業の指導案を学習過程、学習活動、教材の視点から検討し、作成する。
- ・第3学年の単元「店ではたらく人」の実践を通して検証する。
- ・単元における追究の視点や方法の有効性について検証する。

### (2) 具体的な研究活動

#### ①「社会的事象の見方・考え方」の基礎研究

追究の視点には「位置や空間的な広がり視点」、「時期や時間の経過の視点」、「事象や人々の相互関係の視点」などが考えられる。児童がそれらの追究の視点を生かすようにするためには、その視点を含み込んだ「問い」が必要である。

追究の方法には、これらの視点を生かして比較する、関連付ける、総合するといった思考方法が考えられる。それらの思考を通して、児童は社会的事象の特色や意味など、概念的知識を獲得することができるようになっていく。

「社会的事象の見方・考え方」を働かせるとは、児童がこれらの追究の視点や方法を学習プロセスの中で生かしていくことである。

#### ②児童が「社会的事象の見方・考え方」を働かせて学ぶ授業の指導案作成

児童が「社会的事象の見方・考え方」を働かせて学ぶ授業づくりには、思考・判断・表現する学習活動が必要不可欠である。学習過程においては、「小単元の学習問題を設定し、予想する」、「調査してきたことを分類・整理する」、「社会的事象の特色や意味を考え、学習問題の結論をまとめる」、「社会に見られる課題について、社会への関わりを選択・判断する」といった活動場面が考えられる。したがって、「社会的事象の見方・考え方」を教材化の視点として生かすとともに、比較したり関連付けたり総合したりする学習活動の工夫が大切になる。

### ③授業研究を通じた「追究の視点や方法の有効性」の検証：第3学年「店ではたらく人」

#### ○学習問題を設定し、予想する場面

まず導入段階で「私たちはどこでどんな物を買っているのか」と、自分たちの日常的な消費行動を調べた。買い物の場所は、スーパーマーケットが一番多かった。そして、「家の人はどうなことを考えて買い物をしているのか」と保護者等を対象にして消費者ニーズを聞き取るようにした。「産地はどこか」、「新鮮かどうか」、「安さ」、「家族が食べてくれるかどうか」などといった消費者の願いや考えが分かった。そして、それらのことから、児童は「なぜスーパーマーケットに行く人が多いのだろう。」、「家の方は、スーパーマーケットに新鮮なものやいろいろなものを売ったりしているから良いと思っているのかな。」、「たくさん買い物ができるからかな。」、「コンビニや近くの商店よりも人気があるのは、スーパーマーケットが何かをしているからではないか。」などと話し合った。

そこで、学習問題を「スーパーマーケットでは、たくさんのお客さんが来るように、どのようなことをしているのでしょうか。」と設定した。これは、「事象や人々の相互関係」へと導くための問いである。児童は学習問題に対する予想を次のように考えた。

「チラシを出して、欲しいものを見付けられるようにしているのではないか。」

「たくさんのお客さんを受け入れられるように、駐車場を広くしているのではないか。」

「値段を安くしているのではないか。」

「新鮮なものを新鮮なままでいられるように、氷などを持ち帰れるようにしているのではないか。」などである。

そこで、チラシなどによる宣伝、駐車場や店内の広さ、値段、新鮮さ、その他のサービスと調べる事項を決めて、見学・調査を行うようにした。子供たちが保護者から聞き取ったことを基に考えた消費者ニーズである。この場面では、販売の仕方と消費行動という「事象の相互関係」は消費者ニーズという視点から捉えることができることが分かる。

#### ○調査してきたことを分類・整理する場面

その後、児童はスーパーマーケットへ行き、それぞれの事項に基づいて見学・調査を行った。それらの結果を短冊に記入し、黒板で仲間分けをしてまとめるようにした。

調査してきたことを基に児童は、「スーパーマーケットでは、たくさんのお客さんが来るように、品質が良いものを並べたり、安売りをしたりしている。」といったまとめを表現した。一方、「お客さんに丁寧にする。」と予想した児童は、働く人を中心に調査して、「お客さんを大切に、丁寧に説明したりしている。だからお客さんが次も来ようと思う」などと表現した。この児童は、消費者と販売者という「人と人の相互関係」に着目して調べていることが分かる。

#### ○社会的事象の特色や意味を考え、学習問題の結論をまとめる場面

教師は、「販売の工夫」という社会的事象の意味をより深く考えるようにするため、品物の種類の多さに着目させるようにした。「なぜ野菜も果物も、同じ品種なのに何種類もの品物が並べられているのか」を話し合い、消費者が自分の好みで選べるようにする工夫に気付くようにした。

さらに、「それら（野菜や果物）はどこから来ているのか」を調べて白地図にまとめるようにした。これは「位置や空間的な広がり」へと導くための問いである。すると、日本全国から届いていること、日本だけでなく海外からも商品が来ていることが分かった。様々な場所、遠い場所からも来ていることに驚いた児童に対して、教師は「なぜ、様々な場所から来ているのだろう」と発問した。児童は、「埼玉県や日本では作られない食べものがあるから、違う場所から来ている。」「日本と気温とかが違う国でないと作れないものがあるから。」「その土地の特産品が来ているから。」などと発言した。そこで、「なぜそこまでするのか」と再度問いかけると、児童は、消費者には様々な好みや願い、大事している考えなどがあり、様々な人に喜んで買ってもらえるようにしていると、あらためて販売の工夫を消費者ニーズと関連付けて考え、学習問題のまとめにつなげた。

「位置や空間的な広がり」の視点から追究することにより、消費者ニーズに応える販売の工夫という社会的事象の意味を深く理解できたものと考えられる。

### ○選択・判断する場面①

学習問題に対する結論をまとめた後、「お家の人、コンビニよりもスーパーへ買い物に行くのはなぜだろう。」と、スーパーマーケットとコンビニエンス・ストアを比較する活動を行った。

児童は、コンビニエンス・ストアのよいところとして、「近くにある」、「様々なものを売っている」、「買い物の時間が短くてすむ」、「24時間やっている」などを挙げた。それにも関わらず、お家の人、スーパーマーケットへ買い物に行く理由として、「コンビニには、新鮮なお肉やお魚が売っていないから。」「お家の人、安心・安全を気にしていて、スーパーマーケットは産地などが書かれているから。」「商品の種類がたくさんあって一度に買い物が済むし選べるから。」といった考えを述べた。そこで「君たちはどうするか」と聞かけると、「もし、コンビニへ行くならば、それは軽食をしたいときや夜で、スーパーがやっていないときだと思う。いろいろな品物を一度にたくさん買いたいときは、スーパーマーケットへ行くと思う。」「それぞれによさがあるから私たちがその時に必要な方を選べばいいと思う。」といった発言が多く聞かれた。

スーパーマーケットとコンビニエンス・ストアの違いについて、身に付けた「消費者ニーズ」という視点を生かして考えるとともに、これからの自分の消費行動を選択・判断した表現例であると考えられる。

### ○選択・判断する場面②

学習の終末に見学・調査をさせていただいたスーパーマーケットの副店長さんから、「ふれあいコーナー（休憩室）で、ゲームをしに来る子供達がいる。」とのお話をいただいた。看板には「どなたでも御自由に御利用ください」と書かれている。そこで、「ふれあいコーナーはどのように利用すればよいのだろうか。」と問いかけた。児童は、「別にやってもいいのではないか」という意見と、「ここではやるべきではない」という意見に別れた。副店長さんに聞くと「ここでのゲームはやめてほしい。」ということであった。そこで、その理由は何かを考えた。「騒がしくなるから」などといったマナーについて考えをもつ児童もいたが、「お客さんが利用する場所であり、「どなたでも」とは、お客さんはどなたでも、という意味だから。」「このお店で買い物をする人が休憩するために作っているお店のサービスだから。」といった考えを多くの児童が挙げた。

児童は、学習した「お店の工夫の意味」を消費者と関連付けて考え、実社会の課題について選択・判断した表現例であると考えられる。

これらのことから、児童が身に付けた「追究の視点や方法」は、学んだことを生かして選択・判断する場面で生かされるのではないかと考えられる。

## 3 研究の結果と今後の取組

### (1) 研究の結果

#### ○「社会的事象の見方・考え方」についての基礎研究

「社会的事象の見方・考え方」について検討し、それを教材や問いを通してどのように指導に生かすようにすればよいかという具体策を例示できた。

様々な追究の視点を取り上げ、授業実践においてその有効性を検証していくことが今後の課題である。

#### ○授業研究を通じた「社会的事象の見方・考え方」の検証

学習過程や学習活動、教材について検討し、指導案を作成した。

社会的事象の特色や意味といった概念的知識を獲得する上で、追究の視点や方法を生かすことが有効であることが分かった。また今後、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて選択・判断する場面設定を充実させていきたい。

### (2) 今後の取組

本研究の結果、「社会的事象の見方・考え方」について明らかにし、それを指導案に位置付けることができた。

これからは、授業実践を通して本研究の課題を解決するとともに、実践事例を通して本研究の成果をより具体化し、それを広めるようにしていく。